

## 東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） 栈橋部ジャケット上部・下部一体化開始

### 記者発表資料

東京国際空港（羽田空港）の4本目の滑走路（D滑走路）建設工事は、関西国際空港、中部国際空港等、我が国の海上空港の建設に数多く用いられ実績のある埋立構造に、多摩川から流れ出る河川水の通水性を確保するための栈橋構造（ジャケット）を組み合わせたハイブリッド構造になっており、連絡誘導路橋により、現空港に接続されます。

ジャケットについては、上部ジャケットと下部ジャケットをそれぞれ製作拠点で製作後、海上運搬し、ジャケット大組立製作ヤード〔新日鉄エンジニアリング（株）富津ヤード、JFEエンジニアリング（株）千葉ヤード〕で上部・下部ジャケットの一体化を行います。

この度、10月25日に新日鉄エンジニアリング（株）富津ヤードで栈橋部ジャケット第1号基の上部・下部ジャケット一体化が完了しました。一体化したジャケットはヤード内でストックされ、工事区域への搬出・据付は、年明け（平成20年1月）から順次開始する予定です。

栈橋部ジャケットは、①多摩川の通水性の確保、②航空機の繰り返し走行に対する変形抑制・疲労耐久性の確保、③軟弱地盤上に建設される栈橋構造の耐震性確保、④海洋環境下における腐食環境の改善（長期耐久性の確保）等、様々な工夫がなされています。

平成19年10月29日

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

#### 同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会  
横浜海事記者クラブ 都庁記者クラブ

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所  
D滑走路プロジェクト推進室 しげ 四家・大山・みとめ 三留  
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7  
メンテナンスセンターアネックス 5階  
電話 03-5756-6573  
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/index.html>

# 東京国際空港D滑走路建設工事 ジャケット製作 進捗状況

## 1. 棧橋部ジャケット1号機 上・下部一体化状況

10月25日に新日鉄エンジニアリング（株）富津ヤードで棧橋部ジャケット第1号の上部・下部ジャケット一体化が完了しました。一体化したジャケットはヤード内でストックされ、工事区域への搬出・据付は、年明け（平成20年1月）から順次開始する予定です。

### ① ウィンチシステムによる上部ジャケット吊上げ状況



### ② ドーリーによる下部ジャケット搬送状況



③ 上部ジャケット吊り下ろし



④ 上部・下部ジャケット一体化

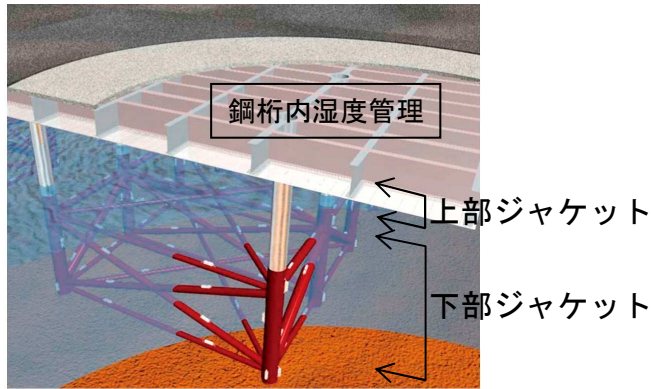


- ⑤ 上・下部ジャケットの仮溶接を行い、ドーリーにより製作ヤード内ストックヤードへ移動し、本溶接を行う。

**2. 棧橋部の今後の工程（現在の予定）**

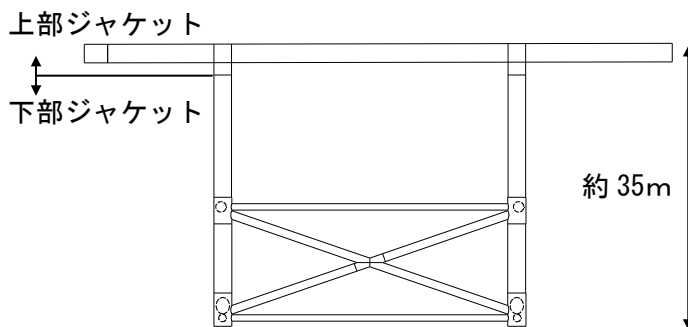
- H19年 9月～ 上部・下部ジャケットの海上運搬
- H19年10月～ 上部および下部ジャケットの一体化
- H19年12月～ 工事区域にて基礎杭打設工 開始予定
- H20年 1月～ 工事区域にてジャケット据付工 開始予定

### 3. 栈橋部ジャケット構造の特徴

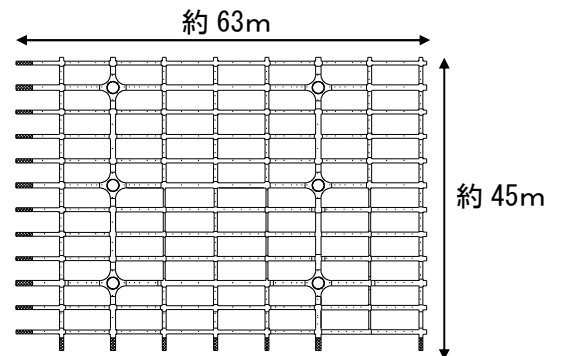


ジャケットの構造

- 栈橋部ジャケット基数  
198基
- 1基当たりの標準寸法  
W63m×L45m×H35m
- 1基当たりの標準的な重量  
約1,300トン  
うち、上部ジャケット 約800トン  
下部ジャケット 約500トン



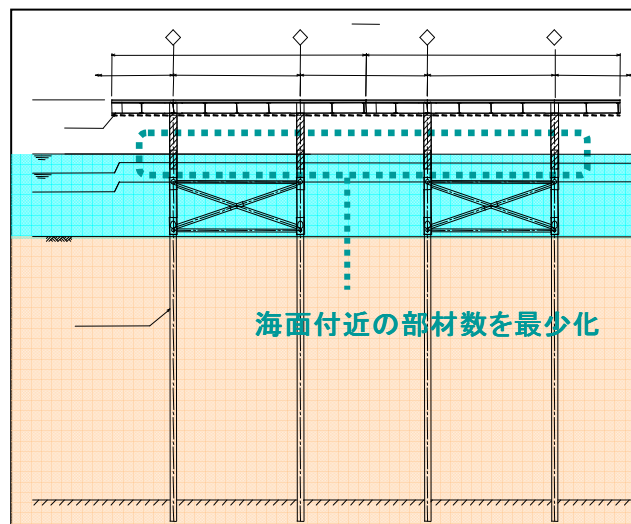
ジャケット構造図



上部ジャケット構造図

#### ① 多摩川の通水性の確保

- ・ 河川管理上支障のない構造とし、「河川管理施設等構造令第8章橋の規定」に準拠
- ・ ジャケットのトラス部材の配置を工夫



ジャケットの標準構造図



## ② 防食仕様の選定

- ・ チタンカバープレート（上部桁内部空間の湿度管理）  
→上部桁の下部に設置し、桁内部空間を除湿、相対湿度の管理  
→鋼桁内部の腐食環境の改善・足場機能の確保  
→チタンによる高耐久性、軽量化  
→本州四国連絡橋等の長大橋で実績のある防食技術
- ・ 耐海水性ステンレス鋼ライニング（飛沫帯、海上部）  
→高耐食性
- ・ 電気防食（海中部）  
→港湾施設に実績が豊富で信頼性の高い流電陽極方式の電気防食工法

